R2.4.30

 ${}^{\circ}\cdot *...: * \cdot {}^{\circ} {}^{\circ}\cdot *:..: * \cdot {}^{\circ} * Andante * * {}^{\circ} {}^{\circ} {}^{\circ}\cdot *...: * \cdot {}^{\circ}\cdot *:... ...$

Vol.130

~北海道の自殺対策について~

Hokkaido

発行:北海道地域自殺対策推進センター

Government (北海道立精神保健福祉センター内)

※『Andante:アンダンテ』とは

「ゆっくりと歩くくらいの速さで」という意味の音楽用語です。皆さんは最近、ゆっくりと歩いてみたことはありますか?ゆっくりと自分にとって適度なスピードで歩いているとき、私達の視野はいつもよりぐっと広がり、忙しく過ごす中では見過ごしがちなものに気が付くことがあります。月に一度「Andante」が届くたびに、皆さんがふっと一息つき、少しの時間だけでもゆっくり歩くことを思い出していただけたらと考えています。

一 目 次 一

- 【1】 北海道における自殺の現状
- ◇ 令和2年3月末の自殺者数(暫定値)[警察庁発表]
- ◇ 全国における死因順位および割合[人口動態統計]
- 【2】 自殺について知ろう
- ◇ 学生・生徒等の自殺をめぐる状況
- 【3】 お知らせ
- ◇ こころの電話相談
- ◇ HP・携帯版 HP をご覧ください
- 【4】 編集後記

令和 2 年 3 月の北海道の自殺者数は 74 人でした。また、全国の自殺者数は 1,704 人、そのうち男性は 1,209 人、女性は 495 人でした。

以下に、北海道および全国の前月比と前年同月比の自殺者数を示します。

1. 令和2年3月末と令和2年2月末の月別自殺者数の比較

令和 2 年 3 月 〈北海道 74 人、全国 1,704 人、全国(男性) 1,209 人、全国(女性) 495 人〉 令和 2 年 2 月 〈北海道 62 人、全国 1,434 人、全国(男性) 1,016 人、全国(女性) 418 人〉 前 月 比 〈北海道 +12 人、全国 +270 人、全国(男性) +193 人、全国(女性) +77 人〉

令和2年3月の自殺者数は、前月比では、北海道・全国・全国(男性)・全国(女性)において増加でした。都道府県別では、自殺者数が増加したのは32、減少したのは12、変化なしは3でした。

2. 令和2年3月末と平成31年3月末の月別自殺者数の比較

令和 2 年 3 月 〈北海道 74 人、全国 1,704 人、全国(男性) 1,209 人、全国(女性) 495 人〉 平成 31 年 3 月 〈北海道 82 人、全国 1,856 人、全国(男性) 1,324 人、全国(女性) 532 人〉 前 年 比 〈北海道 -8 人、全国 -152 人、全国(男性) -115 人、全国(女性) -37 人〉

前年同月比では、北海道・全国・全国男性・全国女性において減少でした。また、都道府県別でみると、自殺者数が増加したのは16、減少したのは29、増減なしは2でした。

1. 平成30年全国における死因順位と死亡総数に対する割合、および人口10万人対自殺率

	死因	死亡数	割合	死亡率
1位	悪性新生物<腫瘍>	373,584	27.4%	300.7
2位	心疾患	208,221	15.3%	167.6
3位	老衰	109,605	8.0%	88.2
4位	脳血管疾患	108,186	7.9%	87.8
5 位	肺炎	94,661	6.9%	76.2
6 位	不慮の事故	41,238	3.0%	33.2
7位	誤嚥性肺炎	38,460	2.8%	31.0
8位	腎不全	26,081	1.9%	21.0
9位	血管性等の認知症	20,521	1.5%	16.5
10位	自殺	20,031	1.5%	16.1

死因として最も多いのは「悪性新生物」で全死因中の27.4%を占めています。つぎに「心疾患」、「老衰」と続きます。「自殺」は10位(前年9位)で、全死因に占める割合は1.5%でした。自殺の男女別順位は、男性が9位、女性が上位10位圏外でした。なお、北海道における自殺の順位は上位10位圏外でした。

2. 平成30年全国における自殺の年齢別死因順位

年齢 10-14 歳 15-19 歳 20-24 歳 25-29 歳 30-34 歳 35-39 歳 40-44 歳 順位 2 位 1 位 1 位 1 位 2 位

45-49 歳 50-54 歳 55-59 歳 60-64 歳 65-69 歳 2 位 3 位 4 位 6 位 7 位

平成 30 年の全国における全死因中の自殺の死因順位は、15~39 歳までの年齢において 1 位となっています。また、10~14 歳、40~49 歳において 2 位、50~54 歳において 3 位となっており、10~69 歳までの幅広い年齢層において死因順位 10 位以内に入っています。

現在、日本の自殺者数は減少傾向にあり、全死因中における死因順位も下がってきておりますが、それでも依然として高い位置にあります。また、中高年層の自殺は平成 10 年以前の水準にまで減少してきていますが、若年層は急増以前の水準にまでは減少していません。自殺対策は「生きることの包括的な支援」であるため簡単に改善されるものではありませんが、より一層の取り組みが求められます。

参考文献

「人口動態統計」、2019、厚生労働省

このように若年層の自殺は深刻な問題となっています。今回は若年層の中でも特に学生・生徒等の自殺をめぐる状況について『令和元年版自殺対策白書』「第3節 若年層の自殺を巡る状況」から一部抜粋してまとめたいと思います。

○学生・生徒等の自殺者数の推移

学生・生徒等の自殺者数について、平成 21 年以降の年次推移では、23 年が 1,029 人と最も多く、24 年から 28 年にかけては減少傾向が続いた後、29 年には増加がみられるなど、おおむね横ばいの状況となっています。

	H21	H22	H23	H24	H25	
年間自殺者数	945	928	1,029	971	918	
	H26	H27	H28	H29	H30	
	874	835	791	817	812	

○小学生、中学生、高校生における原因・動機の計上比率

小学生における原因・動機の計上比率をみると、男子小学生(n=28)では「家族からのしつけ・ 叱責」(42.9%)の割合が高く、それに「学校問題その他」(17.9%)、「学業不振」(14.3%)、「そ の他学友との不和」(14.3%)と続きます。女子小学生(n=21)では「親子関係の不和」(38.1%) と「家族からのしつけ・叱責」(33.3%)が多く、「その他学友との不和」が続きます。男子、女 子とも、小学生における自殺は、家族問題に起因するものの割合が多くなっています。 中学生に関しては、男子中学生(n=359)では「学業不振」(18.7%)の比率が最も高く、「家族 からのしつけ・叱責」(18.1%)、「学校問題その他」(12.3%)、「その他進路に関する悩み」(10.9%) が続きます。女子中学生(n=229)では、「親子関係の不和」(20.1%)が最大の原因・動機とな っており、「その他学友との不和」(18.3%)がこれに続き、「学業不振」(14.0%)となっていま す。

高校生に関しては、男子高校生(n=1,048)では、「学業不振」(18.2%)や「その他進路に関する悩み」(16.4%)といった原因・動機の比率が高く、進学や就職などの岐路にあって、さまざまな不安やプレッシャーを抱える年代であることが反映されています。また、小中学生と異なり、「うつ病」(8.7%)が原因・動機として一定の比率みられるようになってきます。女子高校生(796人)では、「うつ病」(18.3%)、「その他の精神疾患」(12.1%)、比率が高く、男子高校生同様「その他進路に関する悩み」(11.8%)の比率も高くなっています。なお、小中学生の自殺で顕著にみられた家庭生活に起因する原因・動機の比率は相対的に低くなっています。

最後に、いじめについてですが、自殺の動機に占める比率としては上位ではありません(男子小学生 0.0%、女子小学生 9.5%、男子中学生 3.6%、女子中学生 3.5%、男子高校生 0.8%、女子高校生 0.8%)。もちろん、いじめは決して許されるものではなく、また、それ自体が直接自殺の動機につながるものではなくとも、その後の精神形成やキャリア形成に悪影響を残す可能性があります。「その他学友との不和」と併せ教育現場での対策が不可欠です。平成 25 年 9 月に施行されたいじめ防止対策推進法においては、児童生徒の自殺がいじめに起因する疑いがあるときは「重大事態」として事実関係を明確にするための調査をすることが義務づけられています。

参考文献

「令和元年版自殺対策白書」、2019、厚生労働省

【3】お知らせ・

◇ 精神保健福祉センターでは、こころの電話相談を次の時間帯で行っています。

月曜から金曜日

9:00~21:00

土曜日曜祝日(12月29日~1月3日を除く)

10:00~16:00

Tel: 0570-064-556

※ご相談の電話が集中しますと、つながりづらい状態になりますがご了承ください。

◇ HP・携帯版 HP をご覧ください

北海道地域自殺対策推進センターの HP を開設しています。最新の北海道の状況を掲載しており、より情報を見やすく、分かりやすくお伝えできるよう心がけています。

パソコンHP URL: http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/jisatutaisaku.htm

また、携帯電話で見ることができる携帯版 HP も開設しています。警察庁および北海道警察から公表された統計資料をもとに、北海道における自殺の状況を掲載しています。こちらも併せてご覧ください。

携带 HP URL: http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/i/joukyou.htm

北海道は、すっかり雪は溶け春の日差しとなっております。花は咲き始め、そろそろ動物や虫たちも動き出しはじめるかなといった陽気です。

しかし、このような心地よい陽気とは裏腹に先月から続いている新型コロナウイルスによる影響は収まらず、むしろより被害は大きくなっている感じすらします。経済的な影響は 2008 年に起きたリーマンショック以上だとも言われています。自殺との関連では、1998 年にバブル経済崩壊に伴う金融機関の破綻が相次いだ際、日本における年間自殺者数はそれまでの約2万人から約3万人へと増加し、その数はその後およそ10年間に渡って続く事態となりました。3月までのデータでは今のところ影響は見られていませんが、今後一層注意してみていく必要があります。1998 年の時の二の舞にならないよう慎重かつ効果的な対策が望まれます。

いつもご愛読ありがとうございます。

次号 Vol.131 は、令和2年5月末に配信予定です。

お問い合わせ先

北海道立精神保健福祉センター

札幌市白石区本通16丁目北6番34号

Tel 011-864-7121

Fax 011-864-9546

URL http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/

Mail hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp